

平成 11(1999) 年度の事業

事業地の維持管理 事業地は従来どおり市土地開発公社の所有地であったが、今後の環境整備を控え調査整備委員会の指導のもと北側のスギなどを伐採した。クスノキなどの高木は、平成 12 年度以降、順次公園へ移植することとなった。また、都市施設課の協力を得て北東側のクスノキに突っ張りを施した。

発掘調査 8 月 2 日から 11 月 15 日まで第 7 次として実施し(図 1) 範囲確認としては最終調査と位置づけた。墳丘部分では新たにトレンチを設定せず既設のトレンチを部分的に拡張するにとどめ、埴輪の取り上げを主な目的とした。くびれ部の 11 トレンチ(4 次)と 18 トレンチ(6 次) 後円部へのスロープに設定した 17 トレンチ(6 次) がこれにあたる。調査を保留していた 13 トレンチ(5 次) は完掘をはかった。後円部頂では一旦埋め戻していた埴輪列について、掘り方を確認し、取り上げた。また、墓壇範囲の再確認および竪穴式石室に付随する副室の存否の確認を目的とする南北第 2 サブトレンチを設定した。なお、調査開始前の 7 月にはこれまでに出土した埴輪、調査終了後には鉄製品と玉類の整理作業をおこなった。

調査整備委員会 9 月 1 日に第 8 回となる委員会を開催し、現地視察の後、今後の事業計画について調整をはかった。国の史跡指定に関して、具体的な範囲と手続きについて文化庁からの指導があった。

調査の公開と普及啓発 9 月 18 日(土) に現地説明会を開催し、発掘調査の成果を公開した。(株) イビソクの協力を得て竪穴式石室内へ CCD カメラを入れ、地表のモニターで石室内の様子を立体視できるように工夫をした。また、石室内を 360 度再現できるように設定したパソコンをプレハブに 5 台設置し、多くの方々が石室内を観察できるように配慮した。夏休み子ども教室では、昨年度に引き続き体験発掘をおこない、現地での発掘作業と水洗い作業を通して古墳や遺物に触れられる機会を設けた。

調査概要の刊行 平成 10(1998) 年度に実施した第 6 次調査の成果のうち、墳丘の範囲確認に関わる部分を中心に『昼飯大塚古墳』として編集、10 月に刊行した。この編集は共同で調査にあたった大阪大学昼飯大塚古墳発掘調査団が担当した。今回は第 6 次調査のうち後円部頂に関わる成果と第 7 次調査の成果の概要を合わせて報告する。

事業の記録 昨年度に引き続き、大垣ケーブルテレビに委託して発掘調査と現地説明会の様子を映像として収録した。また、墓壇平面形や粘土槨の確認など新たな成果があった後円部頂については、再びバルーンを利用して空撮をおこなった。

史跡の指定 本古墳は平成 10 年 12 月に岐阜県史跡となっていたが、文化庁の指導により平成 11 年度中に国史跡指定への手続きを済ませることになったので、平成 12 年 2 月に安田早苗氏、安田誠氏、清水善彦氏、市土地開発公社の協力を得て文化庁へ関係書類を提出した。これを受けて市教育委員会では今後の事業計画を再検討し、平成 12 年度中の『基本計画』の策定を予定している。(中井)



図 1 調査位置 (S: 1/2000)